

Endangered Cars

絶滅危惧種の咆哮

〔自然吸気V10ファイナル〕ランボルギーニ・ウラカンSTO & アウディR8クーペ

〔純V8スーパースポーツの快感〕フェラーリF8スパイダー

〔12気筒よ永遠に〕ベントレー・フライングスパー・スピード
& メルセデス・マイバッハ S 680 4マティック

ランボルギーニ／ポルシェ
NSX 特選ショップ

注目対決4連発

スーパースポーツ9台対決

ポルシェ911ダカール vs メルセデスAMG G63 vs フォード・レンジャー・ラプター

BMW M3ツーリング vs メルセデスAMG C 63 S Eパフォーマンス・ステーションワゴン

BMW i7 M70 xドライブ vs メルセデスAMG EQS 53 4マティック+

スーパースポーツのボディパーツを得意としながら、とりわけモダンマセラティに力を入れているのがリープデザインだ。今年の東京オートサロンでは、レヴァンテに続くマセラティのSUV第2弾であるグレカールのコンプリートカーを公開した。マセラティのデザイン性をそっと引き立てながら、よりスポーツムードを高めるリープデザイン節のボディパーツは、現時点ではまだ稀有なグレカールを、より類ない存在へと昇華させていた。

そんなリープデザインをいつも支えているのがハイパーフォージドである。今回もその例に漏れず、冒頭のコンプリートカーには、デビューから4年が経ったいまも人気不衰、不朽の名作として括りたいLMCを組み合わせた。ハイパーフォージド流のメッシュデザインを表現したものであり、スーパースポーツからハイエンドサルーン、グレカールのようなSUVにまで車種カテゴリイ問わず似合うと評判である。

ビルダーに寄り添う

エキゾチック鍛造芸

ハイパーフォージドはいつもサイズや仕様などをトコトン話し合ってから決めていくオーダーメイドが常だ。グレカールには今回初めての装着となった。そこでハイパーフォージドとリープデザインとがタッグを組んでマッチングを突き詰めた。トップグレードのトロフェオや、ミドルグレードのモデナでは、リヤフェン

ダーアタッチメントが加わった上で、前後とも21インチホイールが装着される。それに対して今回は前後とも1インチアップ。F・9・5J、R・11・0Jの22インチに。組み合わせたタイヤはそれぞれ265/35 315/30のミシュラン・パイロットスポーツ4Sである。

純正車両へのマッチングを研究し

HYPER FORGED LMC

LEAP DESIGN MASERATI GRECALE

ながら、このコンプリートカーに関してはわずかな工夫を施した。それがKW製H.A.S.を使ったローダウンである。グレカール用の適合品が存在しなかったため、同じジョリジオブラットフォームを使うアルファロメオ・ステルウィオQVに設定されるH.A.S.を流用した。結果はドンピシャだった。上質なライドフィールをキープしたまま、30mmほどローダウンさせることに成功した。

今回のリープデザインとのコラボにあるように、ハイパーフォージドはビルダーやユーザーとの距離が近く、いつも親身になってマッチング

の相談に乗ってくれる。LMCは19.22インチ、そして24インチまでのサイズが用意され、その中で細かく設定されるJ数やインセットからベストアンサーを提供してくれる。色や仕上げも豊富だ。今回はネロテンバスタという艶やかなメタリック系ブラックに合わせて、リムをアナダイズドグロスブラック、ディスクは鍛造感あふれるブラッシュドアナダイズドブラックとした。ハイパーフォージドの中では定番と言える仕上げながら、そこには定番と呼ぶに相応しい美が宿る。奥に潜むレッドキヤリバーに、センターキャップなど

赤の差し色も効いている。

スーパースポーツのように主張が強いわけではなく、かといって純然たる実用車に徹するわけでもない。高性能の中にそこはかとなく色気が同居したかのような独特の世界観を紡ぎ上げるマセラティ製のSUVなら、足もとをこつこつと自分らしく遊ぶことで、より日々を彩る相棒として楽しむことができそうだ。職人による機能美を追求したイタリアンファッションのごとく、オーダーメイドのハイパーフォージドを履いたグレカールを、自然体で身に纏うように乗りこなしてみたい。

マセラティは風の名前にちなんだ車名を用いるのが常で、グレカールは「地中海で強く吹く北東の風」の意を持つという。普段は穏やかにクルージングするような存在ながら、ふとした瞬間に吹く北東風のように、その強さと逞しさを浮き立たせる存在なのだ。ジャンプメイドの切削鍛造ホイールとして高性能が宿り、かつ遊びゴコロにも溢れるハイパーフォージドなら、その双方を優しく、そして強く受け止めてくれる。

リープデザインが構築したグレカール。ベースグレードのGTながら、リヤフェンダーに純正アタッチメントを設けることで、前後22インチ (F9.0J、R11.0J) をすっぽり飲み込んだ。リープデザインのオリジナルパーツとして、フロントスポイラー、サイドステップ、リヤスポイラー、トランクスポイラーで構成されるボディキットが装着される。



2020年に発売開始されたLMC (旧HF-LMC)。ハイパーフォード持ち前の切削技術を駆使した鍛造3ピースホイールだ。ホイールハウスいっぱいには拡がっていくような10本ベアスポークを持つ。ボルトホール周辺の極限まで攻めた造形や、スポークの随所に宿る鉄肉処理、多彩なフィニッシュなど見どころは盛りだくさんだ。センターロックモデルも存在するなどスーパースポーツ勢の性能を受け止める強度や剛性、そして軽量性能を有しており、または重量級SUVをカバーする耐荷重性能を持つ。